

Ecclesiastical Calendar

エクレシヤスティカル カレンダー

知っておきたいキリスト教のことば (55)

教会暦 きょうかいいき

教会暦とは、イエス・キリストに起こった重要な出来事を毎年思い起こすために用いる、教会特有の暦です。

例えば降誕日(クリスマス)は毎年12月25日ですが、この日はイエス様が生まれたことを記念する日です。

また復活日(イースター)は春分の日次の満月の直後に来る日曜日となります。また聖霊降臨日は復活日の50日後です。この二つの祝日は、毎年日にちが変動します。

これら三つの祝日(降誕日・復活日・聖霊降臨日)の他にも、聖公会やカトリック、ルーテル教会などでは、その日がどのような期節であるか決められています。

例えば11月30日に一番近い日曜日を降臨節第1主日と呼び、その日から降誕日までの期間を「降臨節(アドベント)」と呼びます。そして降誕日から1月6日の顕現日までが「降誕節」です。ちなみにクリスマス飾りは、降臨節第1主日から顕現日まで飾るのが正式です。

また、復活日の46日前を「大斎始日(灰の水曜日)」と呼びます。そしてこの日から、イエス様の十字架の苦難をしのぶ「大斎節」に入ります。なお「降臨節」と「大斎節」には、「待望」や「悔い改め」を意味する紫の祭色が用いられ、礼拝堂には花も飾らず、基本的に結婚式もおこないません。

他にもいろいろと決められています。ではどうして聖公会は「教会暦」を大切にしているのでしょうか。それは、イエス様の生涯を毎年迎えることによって、神さまはなぜイエス様をわたしたちの間に生まれさせ、どうして十字架に向かわせ、復活させられたのかを想起することができるからです。イエス様の出来事を、思い起こすのです。

次回は「共観福音書」です。お楽しみに。



「キリストの復活」

18世紀・ポーランド

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

(使徒信経より)

